

デザイン趣旨

全城共通デザイン

- ・【挿画】「世界遺産 石見銀山」
(六城は全て世界遺産の構成資産となっている。)

各城デザイン

1. 山吹城

城概略

- ・大内氏により 1530 年代初頭、標高 430m の要害山山頂に築かれた城で、以後、石見銀山支配の軍事拠点となる。
- ・大内、小笠原、尼子、毛利の勢力下にあり、実戦を踏まえて各勢力が改修を重ねた鉄壁防御の城で、武力により落城したことは一度も無い。
- ・山麓の西本寺の山門は、城門の遺構と伝えられている。

デザイン趣旨

- ・【家紋】 4つの勢力が争奪戦を繰り広げた。(大内、尼子、小笠原、毛利)
- ・【文字】 毛利元就でさえも攻め落とすことができなかった「不落」の城。
- ・【挿画】 雲(時の流れを表現。築城された要害山は、銀山発見から戦国期、江戸、明治、大正、昭和と長きにわたり銀山の興隆と衰退を見続けてきた。)

2. 矢滝城

城概略

- ・標高 634m の山頂に築かれた城で、大内氏により遅くとも 1528 年には築かれていた。
- ・矢滝城と矢筈城の間には石見銀山から温泉津港に至る銀山街道があり、両城が一对となって銀山防衛及び街道掌握の機能を担っていた。
- ・頂上からの眺望は 360° パノラマで、眼下には山吹城や仙ノ山、各集落が明瞭に確認できるとともに、日本海を航行する船、松江・出雲方面、川本方面、江津方面の遠望がきく。

デザイン趣旨

- ・【家紋】 4つの勢力が争奪戦を繰り広げた。(大内、尼子、小笠原、毛利)
- ・【文字】「一望千里」(360° パノラマ)
- ・【挿画】 眼下に見える山吹城と仙ノ山

3. 矢筈城

城概略

- ・ 標高 479m の山頂に築かれた城で、矢滝城と同様に銀山防衛及び街道掌握の機能を担っていた。
- ・ 1557 年、毛利氏が山吹城を押さえて周辺の尼子勢を攻撃し、矢筈城と山久須城（大田市祖式町）及び三子山城（大田市温泉津町）から撤退させたとの記録が残されている。

デザイン趣旨

- ・【家紋】 4つの勢力が争奪戦を繰り広げた。（大内、尼子、小笠原、毛利）
- ・【挿画】 矢（山容が名称の由来／双耳峰）

4. 石見城

城概略

- ・ 標高 153m の竜嶺山山頂に築かれた城で、石見銀山と仁万平野とをつなぐ街道の防御機能を担っていた。
- ・ 竜嶺山は、500 万年以上前の火山活動で形成された山で、溶岩でできた火山体が侵食されて取り残されたものである。西斜面の岩には溶岩が地中を上昇した時にできた縞構造を確認することができる。
- ・ 麓には 1517 年に、石見国守護になった大内義興が建立した石見八幡宮がある。

デザイン趣旨

- ・【家紋】 3つの勢力が争奪戦を繰り広げた。（大内氏、尼子氏、毛利氏）
- ・【挿画】 昇竜（山名由来は西斜面の岩肌が空に昇る竜の姿に見えたからと言われている。）

5. 鷓丸城

城概略

- ・ 1571 年に毛利元就により櫛山城と沖泊湾を挟んで対峙するように築かれた海城。
- ・ 毛利水軍の軍港及び兵站基地として使用され、のちに銀の積み出しと物資搬入の経済拠点として栄えた沖泊・温泉津の警備の機能を果たした。
- ・ 海岸の岩場には、船の係留のため、自然の岩盤をくり抜いて造られた「鼻ぐり岩」が多数見られる。

デザイン趣旨

- ・【家紋】 毛利氏が築いた城。
- ・【挿画】 安宅船（沖泊は毛利水軍の軍港の一つでもあった。）

6. 櫛山城

城概略

- ・ 鶴丸城と沖泊湾を挟んで対峙している海城。
- ・ 元々は大田市温泉津町の一部を治めていた領主・温泉（ゆ）氏が居城していた。
- ・ 石見銀山と温泉津港を狙っていた毛利元就が、尼子方の山吹城在番・本城常光と温泉郷領主・温泉英永の離反を画策する。本城は懐柔されて毛利方に降ったが、温泉は出雲へ退去して尼子方に従った。
- ・ 城は、その後、毛利氏により改修され、鶴丸城とともに沖泊・温泉津の警備の機能を果たした。

デザイン趣旨

- ・【家紋】 3つの勢力が争奪戦を繰り広げた。（大内氏、尼子氏、毛利氏）
- ・【挿画】 関船（日本海を航行する軍船・商船の監視を行っていた）